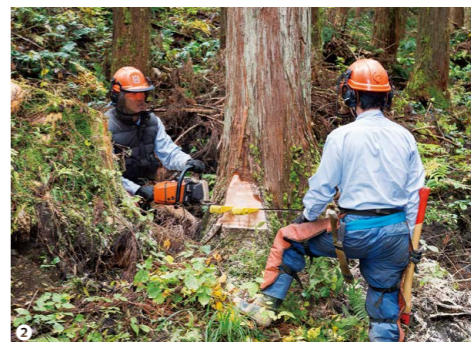


9.5ヘクターの利用間伐現場で約50年のスギを伐倒する、藤田泰氏さん。「作業はいつも慎重に慎重を重ねて。事故を起こさないことも大切ですし、丁寧に伐ると切り口もきれいに仕上がります」



①より安全な作業をするため伐倒もベアを組んで行う。倒す方向に一人立ってもらい、伐倒者は倒す角度を確認・調整する ②「特に大きい木のときは一人より二人の目で確認したほうが確実です」と森林技術員の藤田泰氏さん(左)

“南蒲ブランド”を誇りに 熟練の職人技を継承する

平成2年に加茂市森林組合、田上町森林組合、下田村森林組合が合併し、翌年に旧三条市を地域編入した南蒲原森林組合。森林技術員は17人。森林整備事業を中心に受託・買い取り林産も行っている。

この日、訪れたのは加茂市下土倉地区の利用間伐現場。森林技術員二人がベアを組み、一人がチェーンソーで伐倒、一人は伐倒する付近を整備し、別の角度から伐倒方向を確認して調整の指示をしていた。このような丁寧で確実な伐倒が危険防止とともに仕上げの美しさを誇る“南蒲ブランド”を生み出す。熟練の職人が多くいた時代からの伝統の技が引き継がれているのだ。生産性を上げるためには作業システムの効率化や高性能林業機械の活用も重要だが、組合では機械化に頼りすぎない、経験と技をいかけた“南蒲ブランド”を目標に掲げている。「この地域は、農業がメインで山は資産保有の観点が大きかったのが、資源は豊富なのに森林整備が遅れています。山主さんに管理を呼び掛けていきたい」と組合長の名古屋金市さん。今後も伝統を守りながら森林整備に取り組む。

緑の担い手を目指そう! にいがた山しごと情報誌
Niigata Forestry Magazine vol.6

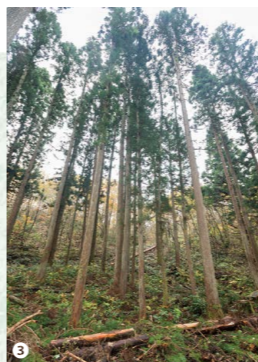
林業事業体レポート ▶

File
01



南蒲原森林組合

加茂市



①伐倒後に枝払いと玉切りを行う、森林技術員の坪谷武志さん ②尺棒を持って玉切りする指導員の珊瑚正三さん ③手間を掛けて手入れしてきた山は良い材を生み出す

緑の担い手

大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち



坪谷 武志 さん

TSUBOYA TAKESHI

[年齢:36歳 林業経験:19年目]

チーム仕事は信頼が大切

林産の班長をやっています。来年でこの仕事を始めて20年になるとは自分でも驚きます。5年目くらいから技術を覚え、いろいろな仕事ができるようになったので面白くなりました。自分の仕事のやり方を見て、若い人たちが育ってくれたらうれしいです。チームでの仕事は何でも話せる信頼関係がないと事故を起こしてしまっことがあるので、「ミニコミュニケーション」を大切にしています。



藤田 泰氏 さん

FUJITA YASUSHI

[年齢:43歳 林業経験:18年目]

特殊伐採の名人を目指す

辛い仕事も多いですが、先輩たちに支えられながらやってきました。自分たちががんばってきた結果がすぐ見て分かることが林業の魅力だと思います。今は班長として特殊伐採を担当して、後輩たちの指導もしています。私が組合に入った当時は特殊伐採が盛んで、卓越した技術を持った名人がいました。私もそんな名人を目指したい。特殊伐採で新潟県ナンバー1になりたいです。



①この地域で利用されてきた「カニ」と呼ばれる木登り用刃物を靴に巻いて木に登る。「昇柱器は木を突き刺して昇りますがカニは軽く足を上げると刺さる感じで木も傷めないし、登りやすいです」 ②安全帯を巻き、腰にチェーンソーを下げて木に登る藤田さん ③4本のツメを持つ「カニ」。引退した職人さんからゆずってもらった ④左から総括部長の吉田敏雄さん、森林技術員の藤田泰氏さん、坪谷武志さん、指導員の珊瑚正三さん

事業体Data



南蒲原森林組合

住所/加茂市大字下高柳字出戸1番地1
電話/0256-53-0080
設立/平成2年 資本金/6,280万円
従業員数/23人(森林技術員17人)
勤務時間/8:00~17:00 主な勤務地/加茂市、三条市ほか
主な従事業務内容/森林整備、受託林産・買い取り林産

事業主コメント

南蒲原森林組合 組合長 名古屋 金市 さん

常に安全作業と技術を両立できる組合にしようとスタッフに話しています。今後も丁寧な仕事と伝統の技を伝えていきたいですね。林業に関わる者としては「30年後に地域の山が老木ばかりになってしまうのでは…」と危機感を持っています。今はコツコツと森林整備を進めていくしかないですが、森林組合の存在価値が問われていると思います。

